

子どもたちの学力向上を積極的に支援！



市では、未来の都城を担う子どもたちを育成するため、「学力の向上」と「国際感覚の醸成」につながる事業に力を入れて取り組んでいます。

今回は、本年度の重要施策として強力に取り組んでいる「小学校学力向上対策事業」や「中学生海外交流事業」などを特集します。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174

「未来を担う子どもたち」を輝かせる

未来の都城を担う子どもには、豊かな人間性ととともに、思考力や判断力、表現力、学びに向かう力が求められます。市では、その基盤となる確かな学力を身に付けさせるために、児童・生徒の実態に応じた学習指導方法の工夫・改善や、各小・中学校の校内研究の充実、教員の指導力の向上などに取り組んでいます。

また、日本の文化とともに外国の文化を理解し、国際化社会に柔軟に対応できることも必要です。

そのため、小・中学校では、外国語指導助手（ALT）が、英語教育を補助することで、語学力の向上と国際感覚の醸成を積極的に支援しています。

これらの取り組みを強力に進めるための事業に、本年度は重点的に予算を配分。小学校における習熟度別少人数指導や、中学生の海外交流事業などを実施し、未来を担う子どもたちの育成に積極的に取り組んでいます。

小学校 学力向上 対策事業

「やればできる！」を実感させ、
学ぶ意欲を引き出す

小学校学力向上対策事業

予算額 3,939万円

1学級が31人以上の小学校3・4年生の算数の授業に、習熟度別少人数指導のための非常勤講師を配置。きめ細かな指導を通して、学習の「つまずき」へ早期に対処し、「算数が分かる」喜びと、「算数ができる」達成感が得られることで、児童の学ぶ意欲を引き出します。





先進地の取り組みを学ぶ

義務教育9年間で全ての教員が共有

東京都三鷹市では、既存の小・中学校を存続させた形で、平成18年から小中一貫教育に取り組んでいます。小・中学校の教員が、児童・生徒の発達を理解し、系統性と連続性のある指導を行うために、小中一貫カリキュラムを実施。カリキュラムを検証するために、月に一回程度、研究授業も開催しています。また、小・中学校両方で、授業交流などを活発に実施。これらの取り組みにより、児童・生徒が安心して学習に取り組む環境ができ、学習意欲と学力の向上につながっています。

今回の視察研修では、三鷹市の教員たちと一緒に授業改善について熱心に協議。学んだ内容を元に、沖水中学校区と祝吉中学校区の小中合同授業研究会で、授業改善についての協議が始まりました。



インタビュー

祝吉中学校
濱川 千春 教務主任



4月から、毎週水曜日と金曜日に、南九州大学の学生が支援員として、本校の業務を手伝ってくれています。教員は、その日に手伝ってほしい業務を依頼票にまとめ、支援員に提出。宿題や学級通信の印刷、生徒らの提出物のチェック、授業で使う教材の準備や片付けなど、いろいろな業務を手伝ってもらっています。

支援員の手伝いにより、準備や教材研究にかかる時間が増えて、授業が充実していると感じています。また、相談に乗ったり話しかけたりする機会が増えるなど、生徒らと向き合う時間も以前より確保できています。

県内では初の取り組みですが、この制度が広がることで、授業や指導などがさらに充実することを期待します。

小中一貫
学力向上
研究
指定事業

9年間を見通した授業改善と
学力向上研究を推進！

小中一貫学力向上研究指定事業
予算額 161万円

中学校3年生で生徒が巣立つ時の姿を、小・中学校の全ての教員が思い浮かべながら、小中一貫9年間を見通した授業改善と学力向上研究を実施。
本年度から平成31年度までの3カ年で、市内の全中学校区を年次的に研究校として指定。指定した中学校区ごとに、学力向上をけん

引するコアティーチャーを選任し、先進地視察などを通して、授業改善と学力向上に取り組みます。また、小・中学校が結束して、指導内容の定着に有効な教材作成の検討を行います。
本年度は、市内5つの中学校区でコアティーチャーを選任。6月には、児童・生徒の健全育成と学力向上で成果を上げている東京都三鷹市の視察研修を行いました。

中学校
教員業務
支援事業

生徒に向き合う時間を確保し、
個別指導の充実を図る

中学校教員業務支援事業
予算額 126万円

中学校教員の教材研究の充実や、生徒と向き合う時間を確保し、学力向上や指導の充実を実現するために、日々の業務を支援する支援員を配置。本年度は、1学年が4学級以上ある中学校5校に1名ずつ支援員を配置しています。
支援員が、学級通信や宿題の印刷・仕分け作業・丸付け、授業で

使用する
道具やプ
ロジェク
ターなど
のICT
機器類の
準備を手伝うことで、教員と生徒
がじっくり向き合うための時間を
確保したり、教材研究に打ち込む
時間を作ったりしています。



子どもたちを育成！



中学生海外交流事業

予算額 765万円

昨年度から市では、海外の文化に対する理解度をより一層深めるために、市内在住の中学生をオーストラリア・クイーンズランド州立中等学校へ派遣。現地のホストファミリー宅にホームステイしながら、現地での生活などとともに「バディ」と呼ばれる生徒と一緒に海外の学校生活を体験します。

本年度は、昨年度の倍となる20人の中学生が、8月にオーストラリアを訪問。生徒たちは、英語の研修を受けたり、授業に参加して生きた英語に触れたりしながら、オーストラリアの生徒たちと交流を深めます。

このほか、オーストラリアの動物園やブライビー島などを視察する機会を設け、外国の文化や習慣に触れる機会を創出します。

インタビュー



高城中学校
近藤 満 校長

昨年度の海外派遣事業に団長として参加しました。初めは緊張していた生徒らも、現地の皆さんが丁寧に対応してくれたこともあり、徐々に環境に慣れ、授業やホームステイを満喫することができたようです。

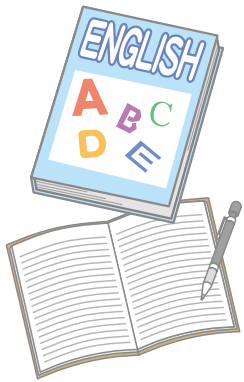
海外交流事業は、実際に海外での生活を体験することで、文化の違いや生きた英語を学ぶことができ、世界に目を向ける絶好の機会になると思います。生徒からも「英語を話せると世界が広がる」「自分から積極的にコミュニケーションを取れるようになりたい」「いろいろな国の人の文化を認めることは大切なこと」など、前向きな意見が多く聞かれました。

この事業がきっかけとなり、世界に羽ばたき活躍する人材が生まれることを期待しています。

●日本の伝統や文化への関心を高める
海外での生活を体験し、外国の文化への理解を深める一方で、滞在先で日本文化を紹介。自国の文化や伝統などに、改めて興味・関心を持つことにもつながります。昨年度は、本市を代表する祭りである「盆地まつり」をオーストラリアの生徒たちに紹介。祭りのメインでもある「サンバヤツサ」を披露し、一緒になって踊りを楽しみました。



昨年度は中学生10人がオーストラリアを訪問



ALTなどの指導を通して、語学力と豊かな国際感覚を身に付ける機会を提供します。

ALTによる語学指導事業
予算額 4,938万円

国際感覚豊かな子



市内全ての小学校5・6年生の外国語活動、全中学校の英語科の授業にALTを派遣。本年度は、地域在住のALTを1人増員し、合計15人が各学校を巡りながら、外国語指導の補助や英語暗唱・弁論大会の支援などを行い、子どもたちのコミュニケーション能力の育成と、国際感覚の醸成に取り組んでいます。



7月5日、沖水小学校では「好きですか」という英語「Do you like」を使った授業が行われました。児童らは、デスマーク出身のALT・厚澤アンネグレートさんと一緒に、リズムに合わせて単語を発音したり、食べ物や動物、スポーツなどの単語を使った文を作り、質問し合っていました。

授業に慣れ始めた後、4人ずつのグループに分かれ、カードを使って相手に質問をするゲームを実施。「相手よりも早くカードがなくなれば勝ち」というこのゲームに、どの児童も元気に英語で質問し合っていました。

楽しく元気に英語を学習

